

2022 年度秋季卒業式 学長式辞
学長 北山 修

本日、ここに 2022 年度秋季卒業式を挙げるにあたり、大学を代表して、卒業生諸君、ならびに、ご列席のご家族の皆様に対し、心からお慶び申し上げます。

この卒業式に臨むのは、経営学部 19 人、法学部 4 人、教育学部 8 人の 3 学部総員 31 人です。

今回の卒業式は、昨年、一昨年に引き続き、「コロナ禍」の中での異例の卒業式ではありますが、秋に少数の卒業生を送り出す、普通の卒業式とは一風変わった卒業式となります。しかしその意味は、皆さんにとって受け取り方は様々でありましょう。

ただし、「今ここ」で、皆さんは卒業するのです。英語では、この「今ここ」を「ヒア・アンド・ナウ」と言います。

昨年もそうでしたが、「今、ここ」でその価値を強調したいのは、大きな感動とは、この瞬間にしかないのではありません。2022 年 9 月 17 日とは、今日しかないのです。写真やビデオに撮っても、この只今は今ここにしかありません。特に目の前のこの瞬間は、一回限り。ところが、この時間はあっという間に過ぎてゆく。

私の幼い頃に体験した世界は、感動はもっともっと大きかったと思います。例えば、何を見ても何を聞いても、後からプレイバックして聴けばいいということはありません。例えば、レコードでしか聞いたことがなかったビートルズが、テレビに登場して動いた時、私は写真の中のビートルズが動いたことにとっても感動しました。

つまり、それが後から見るができるなどとは思っていませんでした。テレビにかじりついてその一回限りの「ありがたさ」を堪能したものです。しかしながら、録画と配信の技術により、多くのイベントで映像による記録が公開され何度も視聴できるようになりました。考えてみると、撮影して後から見ようとしたときから、この「ありがたさ」は急激に衰え始めたと思うのです。

しかし、皆さんの大学生活は思いがけないことの連続で大変でしたでしょう。授業やクラブ活動もままならず、言葉にならないご苦労も多かったことでありましょう。それらの困難や苦しみもまた忘れられない思い出となると思います。その上、今日の日は今日しかありませんし、未だコロナ禍で、ウクライナでは未だ戦闘が繰り返され、国の内外では私の知る限り二つの国葬が準備されている。こんな日は今日しかない。この一緒に卒業する者たちがこのような形で揃うのも今日しかない。

実は、50 年前の私の大学生活でも、多くの授業やクラブ活動が学生運動のお

かげで中止となり、私の卒業式もありませんでした。卒業証書を事務職員の方から受け取ったことを鮮明に覚えています。卒業の当日のこともくっきりとはっきりと今も思い出します。とすれば、ありがたいことに心の中にもカメラがあるようです。

この心の中のカメラの機能を見る時、日本語で重要だと思うのは、物事があるのが難しいからこそ、心はその「ありがたさ」を写し取るという機能であります。それが、滅多にないからこそ、思い出の価値を高くするという機能が心のカメラにはあります。「ありがたみ」というとそれは、宗教的な感覚すら呼び覚ますのであります。これを「聖なる一回性」と呼ぶ人がいます。一回しかないと言う事実には私たちは祈るような思いを持つということでもあります。

そう考えると、今日、平和の貴重であること、健康の大事であること、そして何よりもこの人生も一回限りであり、だからこそ、その瞬間瞬間を大事にしてゆきたいと思われることであらうでしょう。実は私は、そう思って生きてまいりました。おかげさまで、少なくともここまでは充実した人生になったと思います。

つまり、この心のカメラを通せば、卒業式の規模は小さくとも、思い出としては大きい。心として大きく膨らむのであります。皆さん、だから今日の卒業式は、実に価値が高い。この瞬間は二度とないのであります。

だから今日は、思い出に残るはずの卒業式です。それは、あちらにもある、こちらにもあるというような卒業式ではありません。

物事は、いろんな意味で、再生不能であり、今日の日も一生に一回であり、人生も一回です。だから、とても、「ありがたい」ものであります。今日は心のカメラでそれを写しとっていただきたい。

さあ、皆さん、白鷗大学の卒業生の一人として、元気に出発いたしまししょう。いつも申し上げますが、旅だちの日、それが卒業式の基本的な意義でありましょう。だから、心からご卒業おめでとうございますと申し上げ、これからもその人生航路が、あなたにしかできない、充実した旅となることを祈りたいと思います。心のカメラでいっぱい写真を撮り、たくさんの思い出を作ってください。

みなさんのご健闘とご多幸を祈念します。